埼玉純真短期大学研究論文集　第 11 号　PP.67-74

「教育原理」授業をアクティブ・ラーニング手法で
―　学生が興味を持ち，積極的に取り組む授業　―

藤　田　利　久
（こども学科　教授）

1．概要

科目名「教育原理」
対象者　こども学科 1 年生全員（32 名× 4 クラス）

＜授業の取り組み概要＞

教育原理は保育士養成と幼稚園教諭免許状取得には必修の科目である。しかしながら，短期大学に入学したばかりの学生からは，教育原理という科目名を聞いただけで「教育原理なんて難しそう」「言葉も難しいだろうし面倒くさい」「退屈で眠いだろうなぁ」「だけど必修だから仕方ない」「資格のために我慢するか」などとの声が，毎年あがる。

このような学生が教育原理という科目に興味を持ち，積極的態度で授業に臨めるようにとグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング手法で授業を進め，科目名から受けるマイナスの印象を取り除き，興味を持って取組める教育原理にしたいと考えてきた。

しかし，高校を卒業したばかりの学生が，いきなり学生主体の授業を展開することは難しい。そのため，まず教育原理を学ぶにあたって必要な基礎的知識を教師側から講義形式（これも一方的ではなく発問などで学生に興味を持たせながら）で学生に伝え，書かれていることや話されていることの理解や自ら考えるために必要な知識を獲得した上で，グループワーク形式の授業を展開した。また，教育の基本として「教育とは良くなる可能性を持ったヒトに対して善くする働きかけである」ことを認識し，学生自身の信頼される保育者となるための学習態度が重要であることを示した。

本学の幼児教育を目指す学生たちは，はっきりとした目的意識を持ち，それなりの覚悟と心構えを持っているため，学生主体の授業にあたっての学習態度などの約束事も素直に受け止め，授業に臨んでくれることは幸いである。

このアクティブ・ラーニング手法を採り入れた理由のひとつに，信頼される保育者となるためにも，ただ単に知識を習得するだけではなく，子供や保護者・同僚・地域など周囲の者に常に関心をはらい，感じることを通して，相手を理解し自ら考え，意見を述べることができる位までのコミュニケーション能力をつけさせたいとの考えがある。しかしながら，学生たちは高校までの学校生活の中で自らが進んで質問をしたり，自らの意見を述べたりすることには慣れておらず，他人を意識するあまりに発言することにプレッシャーを感じることも多いと言う。そのような学生たちが積極的に質問をしたり，発問に答えたり，自分の意見を素直に述べることができるようにしたいとの思いで，高校までに受けきた授業とは違った授業の雰囲気作りを行った。

これらの目的のため，これまでも実施してきた学生主体の相互教授やグループワークを進化させた形でのアクティブ・ラーニング手法を取り入れた。今回はこの授業の一部の実践報告をしたいと思う。

＜授業のねらい＞

「教育とは何か」について歴史的流れの中で教育の意義と目的を学び，自ら考え，実践する態度を身につける。また考える力と実践力とともに，相互授業などで「伝え・聴く」ことを通して保育者として重要なコミュニケーション力の向上も図る。

＜到達目標＞

相互教授やプレゼンテーション，フィードバックを行うことで「計画」「準備」「交換」「分析」「検証」の必要性・重要性を認識し，これらを確実に実行できる力と習慣が身につく。

１）教育に興味と関心を持ち，積極的に書籍や資料に接する習慣がつく。

２）自ら資料を読み，その資料を簡潔にまとめる力がつく。

３）相手の意見を聴き，自分の意見を述べるプレゼンテーション力がつく。

＜授業に取り入れた手法＞

※　事前学習
※　ディスカッション
※　相互コメント
※　フィードバックテスト
※　グループワーク
※　プレゼンテーション
※　相互教授

２．授業の内容

短期大学に入学間もない１年生の学生に，前期２単位で「何を，どのように」教えるかについては毎年悩むところである。本学では保育士資格と幼稚園教諭免許状を取得するためのカリキュラムを組んでおり，教育原理はその必修科目である。科目の目標や内容は「授業のねらい」と「到達目標」に述べたとおり，「指定保育士養成施設の指定および運営の基準について（平成 27 年 3 月 31 日）」に準拠している。しかし，次に示されている内容すべてを盛り込むには時間的な制約もあり，難しさを感じている。この解消のためにも授業の実施方法の工夫が重要となっている。

【保育の本質・目的に関する科目】

〈科目名〉教育原理（講義・２単位）

〈目標〉1.教育の意義，目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解する。
2.教育の思想と歴史的変遷について学び，教育に関する基礎的な理論を理解する。
3.教育の制度について理解する。
4.教育実践のさまざまな取り組みについて理解する
5.生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

〈内容〉1.教育の意義，目的及び児童福祉等との関連性
2.教育の思想と歴史的変遷
3.教育の制度
4.教育の実践
5.生涯学習社会における教育の現状と課題
（「指定保育士養成施設の指定および運営の基準について」平成 27 年 3 月 31 日　より）

また，「指定保育士養成施設の指定および運営の基準」とともに，幼稚園教諭免許状取得の「教職課程コアカリキュラム（案）」として「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会（平成29年6月29日）」に次のように示されている教育原理に該当する科目の目標や内容にも沿ったものとしている。

【教育の基礎的理解に関する科目】

各科目に含めることが必要な事項

・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む）
・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項

（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）
・幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
・特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解
・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・.マネジメントを含む）

【教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想】
＜全体目標＞
教育の基本的概念は何か，また，教育の理念にはどのようなものがあり，教育の歴史や思想において，それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに，これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ，変遷してきたのかを理解する。

（1）教育の基本的概念
＜一般目標＞　教育の基本的概念を身に付けるとともに，教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
（2）教育に関する歴史
＜一般目標＞　教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け，それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
（3）教育に関する思想
＜一般目標＞　教育に関する様々な思想，それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

3.授業の取り組み（導入―授業実施の取り決め―）
学生自らが興味と自覚を持って臨める学生中心の展開のために授業実施等の管理も学生自身に委ねた。個人出席管理表（図1）を学生一人一人に配布し，毎回学生自身で得点を記入することで自身の到達度も確認することができるとともに，自己管理への意識を持たせたいと考えた。

この管理表には「授業参画」「質問・発表」「感想」「提出物」「ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ」「授業の要点」の記入欄を設けており，学生はそれぞれに自分の獲得した点数を記入し，現時点での獲得得点を把握できるようにしている。

また，毎回の授業終了後には，図2のとおり「今日の授業の感想」「質問や意見」「教師の授業評価」「学生の自己態度評価」を記入し，翌週提出させることにしている。学生が記入した感想や質問などに対しては，翌週までに教師がすべて目を通して次回の授業で回答をしている。このフィードバックは教師と学生の間に信頼感を芽生えさせてくれている。

このように，学生からの質問や意見に対して速やかな教師からのフィードバックは教師にとって負担も多く，授業進度も遅滞する場合もあるが，学生が授業や学習に取り組むモティベーションを高めることに役立っていると学生からの評判は良い。この毎回の教師と学生との意見交換で学生自身にも質問や意見を述べることが

個人出席管理票

教育原理
水曜日
（藤田）

回 数	月 日	授業参画	質問発表	感 想	提出物	ﾌｨｰﾄﾞ	授業の要点
第1回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第2回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第3回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第4回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第5回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第6回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第7回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第8回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第9回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第10回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第11回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第12回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第13回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第14回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第15回	月 日	/5	/10	/10	/10		
第16回	月 日	期末テスト					
合計点	点	点	点	点	点	点	

この個人出席管理票は、成績評価の基礎資料です。

図1：学生各自が記入する個人出席管理票

習慣づけられ，学生同士のグループワークの運営にも役立っていると考えている。

また，毎回の授業における教師の授業評価や学生自身の受講態度評価も，お互いに適度な緊張感が生まれることで授業にも良い雰囲気を創りだしていると感じている。

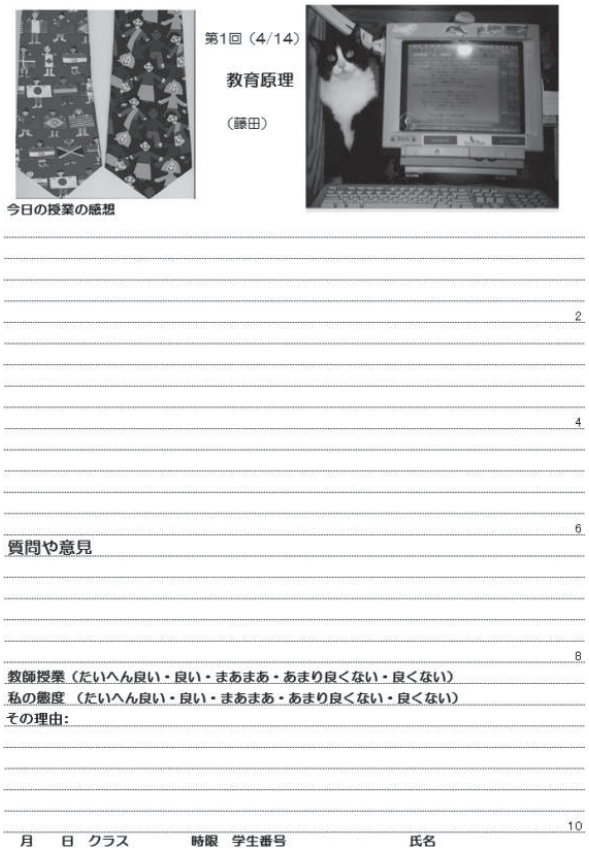

図２：毎回提出の授業の感想と質問用紙

４．授業の取り組み
（グループワークとプレゼンテーション）

学生主体のワーク活動においては，１グループ３～４人（これまでの経験で５人では多い）で編成し，個人ワーク（事前学習）を前提にしたグループワークを実施している。

まず，教師が教育について基礎的な講義を２コマ程度実施した後，「教育とは」について自分自身の考えを基に，グループメンバーで話し合い，考え，模造紙を作成して発表するという課題を与える。学生に事前課題を与え25項目程度「教育とは」について箇条書きにしたものをグループでBS法を応用した形で整理し，カードに書き込み，分類し，タイトルをつけるというカード式で行った（図3）。　次に分類したカードを系統的に配置し，模造紙に貼り付けた後，メンバーが協力しながらプレゼンテーションの台詞を考えさせる。この自らの模造紙に記入した内容をグループのメンバー全員がそれぞれ１回は他のグループのメンバーに説明しなければならないよう設定する（このために発表の回数はグループメンバー数となる）。発表については，聴いた他のグループメンバーからのフィードバックと個人でのフィードバックを行い，次へのステップアップへの期待と自信を持たせるように配慮している（このためマイナス評価ではなく優れた点の評価をする）。

図３：書き出したカードの内容吟味

この時期の新入生はまだ友人関係が十分に確立されていないので，遠慮や戸惑いもいたるところで見られる。しかしながら，一定の時間内に一連の作業を終え，完成させなければならないことから，自然とリーダー・フォロワー関係も生まれ，互いに協力・協働しあう仲間意識が生まれてくるようになる。これら作業においては学生のペースを見ながら，ゆっくりと時間をかけ，それぞれが理解し合うことができるように配慮した。

この作業については授業終了後の学生の感想に次のように述べられており，学生自身も自ら活動したことで自信を深めたように思われる。

「教育原理の授業の中で興味関心を持ったのはグループワークです。高校の頃はグループワークの授業がほとんどなく，あまり話し合うことに慣れていなくて不安でした。実際にグループワークをしてみて，みんなで話すことの大切さ，楽しさに気づきました」とグループワークに楽しさを覚えたことや「グループ活動も多くて発表することがたくさんありました。人前で発表することが苦手だった私はこの授業がすご

くいい練習になったと思います。この授業がなかったら，人前での発表に相変わらず嫌なままだったと思っていたので本当に良かったです」という人前での発表の自信がついたと述べるなど，他のグループの学生から良い評価を受け，ほとんどの学生がグループワークから得るものの大きさを実感しているようであった。

図４：ボディーランゲージを交えた発表

図５：一度に各グループが一斉に発表
聴く側も真剣な様子

５．授業の取り組み
（相互教授とフィードバックテスト）

これまでの一連のグループワークでワークの楽しさと自信をつけた学生の次のステップは「相互教授」であった。これはグループのメンバーが各自テキストの担当部分を要約し，用紙に作成した資料を用いてグループメンバーに教え合う作業である。この相互教授の後，担当部分の内容についてのフィードバックテスト（教師作成）があるため，教える側も教えられる側も互いに真剣で，緊張感が生まれる（個人点とグループ点で得点を競う）。

学生は担当した部分を事前にイラストや表，カラーマーカーペンを使ってわかりやすい資料作成をし，それをもとに担当部分を教える（図6）。教える内容についてはポイントを３～５項目程度に絞りメンバーに伝えたいことを事前に準備資料として書き出しておく ことを伝えておく。説明時間は１人７分（程度）とし，説明と質問もこの時間内に行う。説明はメモを取りながら聴き，その後５分程度の確認時間を取り，フィードバックテストに臨むのである。

この相互教授の一連の流れは次のとおりである。

１．グループメンバーで担当範囲を決める
２．担当部分をまとめ，メンバーに教える
３．フィードバックテスト（個人解答）
４．グループで話し合い（グループ解答）
５．担当部分が同じ他のグループメンバーと
　　資料評価と評価の理由を発表し合う
６．獲得得点の個人・グループ評価
７．教師への質問（個人・グループ）
８．教師が学生の疑問や質問へ回答

図６：イラストなどを使った教授資料

この相互教授を行った後の学生からの共通した感想は次のとおりである。

＊メンバーに責任があるので一所懸命準備した
＊グループのために遅刻も休みもできなかった
＊グループのために資料を工夫した
＊責任があるのでプレッシャーがかかった
＊資料作りが時間がかかり大変だった
＊相手に分かるように発表するのが難しかった

＊自分が内容を理解しないと相手には伝えられないことが分かった
＊メモをとることが大切だと気づいた
＊分からないことを確認する大切さがわかった
＊他人の発表を真剣に耳を傾け聴かないと失礼だと思った

図７：資料に基づいての教授，聴く側も必死でメモ取り

図８：担当部分が同じの他のグループのメンバーと教授資料の評価をし，最も良かった資料をその結果を理由とともに発表

6. さいごに

アクティブ・ラーニングのいくつかの手法を取り入れ実施した授業の一部を紹介した。この授業で，学生たちはそれぞれの課題の終了後にフィードバックを行い，自らの活動の点検と評価を行うことで達成感を感じられたようであった。

今後の課題としては「教育原理」の内容すべてを１年生前期１５コマの授業で消化することは困難であることから，保育原理など隣接科目の担当者とも内容のすり合わせを行い，教育原理としての重点を絞り全体構成を見直すとともに，新入生が教育原理に興味を持って積極的に参加できる授業を展開しなければならないと考えている。

＜参考までに＞

参考までに教育原理の第１回の授業と最終回の授業の学生の感想は以下のとおりである。

（第１回の授業を終えて）

＊　シラバスを読んだときに授業内容が難しいという印象でした。初めて授業受けて積極性を養い，考え方を豊かできると思いました。

＊　教育原理はもっと堅苦しくて，難しそうなイメージでしたが，そんなことは無く，楽しい授業とわかったので頑張りたいです。

＊　教育原理は難しそうで授業を受けていかれるが心配だったけれど，グループワークをすると聞いて興味を持ち積極的な態度で取り組めそうです。

＊　教育原理を受けて１番初めに感じたのは先生の授業スタイルでした。正直このスタイルの授業は初めてで驚きました。普通の授業ではなく全員が参加しているなと感じる授業だった。だから楽しかったし，次の授業も楽しみだ。

＊　この授業受ける前は正直難しそうだし，ついて行けるが分からないし，嫌だなぁって思っていましたが，授業受けて質問に答えるゲーム形式で授業が楽しく思えました。

（授業15回を終えて）

＊　グループで文章を１人ずつ要約して発表したのが印象に残っています。その理由は同じ文章であっても他のグループの人が要約したのとは違って驚きました。その違った要約の中でも結局言いたいことが，お互いに見つかるのが凄いと思いました。

＊　最初は書くことがたくさんあってめんどうくさいなと思っていましたが，授業が進むにつれて授業の内容も理解できるようになって楽しくなってきました。また分からないことがあったとき，質問できたことで自分だけで答えを出したり，わからないままモヤモヤしないで良かったです。

＊　教育原理の授業の中で興味を持った事は教科書や資料見ながら自分で大切なところを抜き出し，それについて班の人たちとグループワークを行ったことです。自分でまとめたものを友達同士で発表しあったり，見せあったりしたら，人はそれぞれ同じものを見ていても，書いてあることやまとめ方が違っていてとても面白いと思いました。また，発表した際に他のグループの人たちの発表を聞き，違った考えだったので友達同士で保育に関する意見や改善策を交換しあったりでき，とても良いと思います。

図９：発表を聞いての自己確認作業

＊　グループワークで意見を相手に伝えることやメモの取り方，他人とのコミュニケーションの取り方について勉強できて，自分の苦手なことを一度に練習できたと思います。

＊　少人数のグループに分かれて，そのグループの中で発表をし合って，他の人の発表や意見を聞くことができ，自分では考えられないような意見なども聞くことができて，とても良い機会となりました。発表することは苦手でしたが，授業を通して意見を言うことで，グループが良い方向に向いて，まとまった発表ができるようになり，とても良い経験になったので，人前に出て意見を言うことを怖がらずにできると思います。

＊　授業の中で関心を持ったのはグループ活動で私自身が調べたレポートの内容全てです。その理由はグループ活動することでの責任感も強くなっただけでなく，自分で調べての発表レポート作成だったので一番頭の中に残りました。

＊　この授業をうけるまでは，自分の思ったことを発表することが恥ずかしくて，あまりできなかった。教育とは何かと聞かれても，深く考えたことがないし，教えることなどできませんでした。この授業を受けてからは，教育とは何かなどとはっきりとした答えを出すことができます。

＊　教育原理の中でとても気になったのが言葉に含まれている意味がとても深いことでした。だからこそ教育原理で教育とはどんなことなのか，また何が子どもにとって重要なのかなど，この授業で学んだことを現場で活かしたいと思います。

発表評価票

発表グループ名　（　　）　　評価班（　　）

発表　回数（　1回目　2回目　3回目　4回目　5回目　6回目）

模造紙の評価

	5	4	3	2	1
図は見て美しいか？					
カード配置のまとまりはあるか？					
主張したいことが、図を見ただけで分かるか？					

発表の評価

	5	4	3	2	1
立った姿勢がきちんとしているか？ 改善をしたらもっと良くなる点					
笑顔を交えているか？ 改善をしたらもっと良くなる点					
聞き手の顔を見て話しているか？ 改善をしたらもっと良くなる点					
声の大きさは聞き取りやすいか？ 改善をしたらもっと良くなる点					
言葉は分かりやすい表現であるか？ 改善をしたらもっと良くなる点					
主張するポイントを最初と最後に話したか？ 改善をしたらもっと良くなる点					
発表のための練習や準備は出来ていたか？ 改善をしたらもっと良くなる点					

	100	80	60	40	10
全体の評価と改善をしたらもっと良くなる点					

自己評価用

クラス・班名＿＿＿＿　学番＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

自己評価シート

		評価（5段階）
明確にポイントをしぼって説明できたか		5・4・3・2・1
最初と最後に要点を説明 内容伝えたか 聴く人を見ながら話したか		
グループメンバーと協力して 作業することができたか	5・4・3・2・1	
作成に積極的に参加したか 準備に積極的に参加したか		
グループへの貢献ができたか	5・4・3・2・1	
グループでの役割を果たしたか		
総合評価	あなた自身の全体の評価	
カード作成から 模造紙作成 そして 発表までの 全ての感想		5・4・3・2・1

評価票はすべて「良かった点」を評価・記入することで、学生たちに自信を持たせ、やる気を起こさせるよう配慮をした。

発表前準備

1. あなたの発表の中で、重要で、グループメンバーに知って欲しいことを3項目、箇条書きで書いてください。

1 ……

2 ……

3 ……

2. あなたの発表の中で、メンバーに覚えてほしい語句や文を5項目書いてください。（上と同じ内容でもかまいません。）

（例：幼児期は知的にも情緒的にも大きく成長し、発達する時期である。）

1 ……

2 ……

3 ……

4 ……

5 ……

3. グループで話し合い、今日の発表範囲の中で、みんなに知って欲しいことを5項目、模造紙に書いて理由をつけて発表してください。

4. メンバー名　A：＿＿＿＿　B：＿＿＿＿　C：＿＿＿＿　D：＿＿＿＿

時限　クラス　グループ　学生番号　氏　名 ＿＿＿＿

「聞き手用」

時限・　クラス　（　　）班へ（　　）班より 評価シート　聞き手側	
	評価（5段階）
ポイントを明確に説明していたか	5・4・3・2・1
主張したのは何か	
ボディランゲージを交えて話していたか	5・4・3・2・1
話し方の工夫がされていた点	
言葉の使い方や声の大きさは良かったか	5・4・3・2・1
良かった点	
プレゼンテーション全体の評価	5・4・3・2・1
良かった点	
	5・4・3・2・1

フィードバックテスト（P61～70）

（話を聞いて、自分が書きとめたメモは見てもかまいません。スマホ写真はダメですが・・・）

（　　）の中に、＜語群＞から選んで適当な言葉を入れてしてください。

1 （①　　）や（②　　）を中心とする幼稚園教育と教科（③　　）を中心とする小学校教育は内容などに段差がある。

2 幼少連携では、幼児期から児童期への（④　　）の（⑤　　）や（⑥　　）の（⑤　　）の確保が重要である。

3 幼稚園と小学校の教師はともに子どもの（⑦　　）を（⑧　　）でとらえる努力が必要である。

4 子どもの発達を踏まえ（⑨　　）の（⑩　　）を図るための取り組みはまだ十分とは言えない。

5 少子化や核家族化で家庭や（⑪　　）での（⑫　　）は限られたものとなっている。

6 園だけでなく、（⑬　　）人々や（⑭　　）との（⑮　　）とおして（⑯　　）経験をを重視している。

7 幼児教育では共通の目的に向かって一緒に取り組む（⑰　　）的な活動も（⑱　　）的に採り入れている。

8 幼児・児童の交流は（⑲　　）的で無理のない計画を立て、（⑳　　）に移していくことが大切である。

9 人と（21　　）力を培うことが大切な現代、交流活動は（22　　）との（23　　）を通して（24　　）心を育む。。

10 現代の社会風潮では子どもの（25　　）成長確保のためには（26　　）との（27　　）深める必要がある。

11 教師は（28　　）とともに子育てするという（29　　）を明確にしなければならない。

12 子どもは用紙や友達との交流をとおして（30　　）な生活態度や（31　　）な態度を身につける。

13 保護者が園や教師に不信感をもたないためにも幼児教育への（32　　）を深め、（33　　）を持ってもらうことが重要である。

14 望ましい発達や学習の芽生えを育むために我が子の成長に（34　　）を感じ、入学への（35　　）を持つことが重要である。

15 幼稚園教諭と保護者の（36　　）の輪に小学校教師が（37　　）することで、保護者の不安も解消される。

分からない（説明してほしい）語句などを書いてください。

発表順序と観察班（　　クラス　　班）

班	1回目	2回目	3回目	4回目
メンバー名	さん	さん	さん	さん
さん	班　発表	班　観察	班　観察	班　観察
さん	班　観察	班　発表	班　観察	班　観察
さん	班　観察	班　観察	班　発表	班　観察
さん	班　観察	班　観察	班　観察	班　発表

1班　の　メンバーの例

1班	1回目	2回目	3回目	4回目
メンバー名	小澤	持田	加藤	金子
小澤さん	1班　発表・	1班　観察	2班　観察	3班　観察
持田さん	5班　観察	1班　発表・	1班　観察	2班　観察
加藤さん	4班　観察	5班　観察	1班　発表・	1班　観察
金子さん	3班　観察	4班　観察	5班　観察	1班　発表・

班	教育に関係する人物 A～D群からそれぞれ1人ずつ教育者選び、担当者に○を付ける。（1人が4人調べる）	グループ調べ担当者			
		さん	さん	さん	さん
A群	ソクラテス				
	コメニウス				
	ジョン・ロック				
	コンドルセ				
	ジャン＝ジャック・ルソー				
	ヨハン・ハインリッヒ・ペスタロッチ				
	フリードリヒ・フレーベル				
	ヨハン・フリードリヒ・ヘルバルト				
B群	レフ・ヴィゴツキー				
	エレン・ケイ				
	ルドルフ・シュタイナー				
	ジャン・ピアジェ				
	マリア・モンテッソーリ				
	バラス・スキナー				
	ジョン・デューイ				
	ジェローム・ブルーナー				
C群	孔子				
	世阿弥				
	貝原益軒				
	中江藤樹				
	二宮尊徳				
	広瀬淡窓				
	良寛				
	吉田松陰				
D群	福澤諭吉				
	元田永孚				
	森有礼				
	倉橋惣三				
	大隈重信				
	松野 クララ				
	石井 筆子				
	森信三				